

トピックス詳細



日本高血圧学会総会でYoung Investigator Awardを受賞（2008年11月17日）

第31回日本高血圧学会総会が、「生活習慣病の予防戦略-血圧管理の重要性-」をメインテーマに10月9日から11日まで札幌で開催されました。信州大学からは、大学院医学系研究科臓器発生制御医学講座の新藤優佳研究員の演題発表があり、審査の結果、Young Investigator's Award 2008優秀賞を受賞しました。

受賞対象となった発表は「GPCR modulator protein RAMP2 is essential for angiogenesis and vascular integrity」です。この研究は、アドレノメデュリンという生理活性分子の活性調節タンパクであるRAMP2が、血圧調節や、血管保護作用を持っていることを明らかにした研究で、今後研究が進めば、高血圧治療や虚血性心疾患などの治療法開発に大きな期待が寄せられます。



日本高血圧学会は1978年に設立され、「高血圧治療ガイドライン」の発行、大規模臨床試験“COLM-Study”や“Homed-BP Study”等の実施など、高血圧や関連疾患の臨床および研究の発展に大きく寄与してきた学会です。平成19年度の国民栄養調査の成績では、高血圧は3,690万人と推測され、最も高頻度な生活習慣病です。生活習慣病やメタボリックシンドロームの対策の上で、高血圧治療研究は今後さらに重要性が増すと考えられます。

なお、新藤優佳研究員の受賞については、11月3日の信濃毎日新聞の科学欄で紹介されました。

[トップページ](#)
[トピックス一覧](#)
[ページトップへ戻る](#)
[採用情報](#) [教職員向け情報](#)

デジタルパンフレット
2008-2009

イベント予定

環境ISO14001

教育研究プロジェクト

信大人百科

キャンパスフォト
ライブラリー

SUTV
信州大学テレビ

附属病院

附属図書館

研究者総覧